

平成30年(2018年)4月3日

れきみん

資料館だより

No. Ⅲ-12

相生市立歴史民俗資料館

「れきみん」の春 その2

歴史民俗資料館(れきみん)も4月を迎え、玄関のビオラの花は日ごとに広がりを見せています。隣接する中央公園も春の陽気に包まれ、今、桜(ソメイヨシノ)や白モクレン・紅モクレンの花が咲き誇っています。また引き続き、濃淡さまざまな八重桜やコブシ、ヤマツツジの花が、訪れる人を楽しませてくれることでしょう。

中央公園で花見・散策を楽しみ、合わせて「れきみん」で歴史にふれてみませんか。



ソメイヨシノと歴史民俗資料館



モクレンと歴史民俗資料館

★ 歴史講座「通史あいおい」(全24回)の参加者を募集しています

- ◇ テーマ：①考古学からみた相生 ②古代・中世の相生 ③近世の相生
④近・現代の相生
 - ◇ 講師：中濱久喜(相生市立歴史民俗資料館文化財専門員)…テーマ①
松本恵司(相生歴史研究会会長)…テーマ②～④
 - ◇ 開講日時：毎月第1・第3土曜日(4月のみ第1・第4土曜日)午前10時30～正午
 - ◇ 開講場所：相生市立図書館2階 第2会議室 歴史民俗資料館で展示資料を見学することもあります
 - ◇ 募集人員：成人(高校生も可)20名(全体を通しての参加を原則とします)
 - ◇ 参加費：無料(資料代等が必要な場合は実費をいただくことがあります)
 - ◇ 申し込み：相生市立歴史民俗資料館へ(TEL・FAX0791-23-2961)
電話での受付は休館日を除く午前9時30分～午後3時30分
先着順で定員に達すれば締め切ります。
- * 詳しくは相生市立歴史民俗資料館までお問い合わせください。

〈資料紹介8〉陸・構谷2号墳出土須恵器

昨年10月、平井漢氏（故人）が所蔵されていた相生市関係資料を、ご子息の平井常満氏より当館に寄贈していただきました。

平井漢氏は上郡町で生まれ居住されていましたが、相生市内の小・中学校に教員とし勤務され、学校教育とともに考古学・歴史学・民俗学などの研究を進められました。そして、新旧『相生市史』の編纂・執筆をはじめ、多岐にわたる多くの業績を残されました。寄贈資料も考古資料、教育・行政関係資料、写真・地図など多種多様なものがあります。

今回は、寄贈資料のうち、「構谷 S.30.1.30」の注記のある須恵器3点（杯身2点と高杯1点）を紹介します。平井氏が当資料を所蔵するに至った経緯についてはよくわかりませんが、注記のあることから、直接採集されたものと思われます。

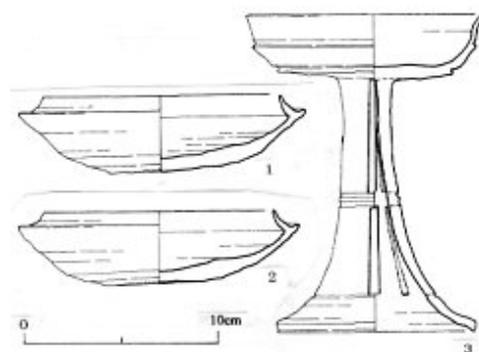
「構谷」とは、旧『相生市史』第2集（1960）と旧『相生市遺跡分布地図及び地名表』（1986）を参考にすれば、構谷2号墳のことと考えられます。当古墳は、陸字構谷の尾根上に築かれた小古墳です。埋葬施設は横穴式石室ですが、破壊著しく、規模や詳しい構造は不明です。

杯身1は口径12.3cm、器高4.1cm、杯身2は口径12.0cm、器高3.9cmを測ります。2がわずかに小さく色調がやや暗いものの、容量・形態・調整はほぼ同じです。底部はともにヘラケズリが認められます。

3の高杯は口径12.0cm、器高16.7cmを測り、脚部に2段3方の長方形透かしを有しています。杯部には2条の稜が、脚部には3条の沈線がめぐり、全体に黒光りしシャープな感じがしますが、文様は施されていません。

形態・技法の特徴から、いずれの資料も6世紀第4四半期ごろのものと考えられ、古墳築造時期推定の手がかりになります。

なお、旧『相生市遺跡分布地図及び地名表』には、紹介資料のほかに提瓶・壺などの多数の須恵器、耳環・小玉などの装身具が出土したと記載されていますが、所在は不明です。



構築谷2号墳出土須恵器実測図

〈参考文献〉

田辺昭三 1981 『須恵器大成』（角川書店）

* 資料を寄贈いただいた平井常満氏、ならびに資料について有益なご教示をいただいた鈴木豊彦氏に記して感謝申し上げます。

（中濱久喜）